

2025年5月4日

※片岡則夫(kataoka@toshokanshinko.or.jp)

★山崎勇気(yamazakiyuki@seikyo.ed.jp)

## 「探究学習・調べる学習ひろば」参加者のコメントから

探究学習・調べる学習ひろば」参加者のコメントから

4月26日(土)21:00~22:30に実施された「探究学習・調べる学習ひろば」の第1回では45名が参加、そのうち事後のアンケートに19名が回答してくださった(青文字)。以下抜粋引用するとともに、簡単な回答・コメントを記します(※…片岡 / ★…山崎)。

ときに、アンケートに答えていただくときに、校種(小中校)と職名・担当科目(教諭・学校司書等)を最後に書いておいて頂けるとありがたいです。

このような貴重な企画を立ち上げていただきありがとうございます。自宅から参加できるのは大変ありがたいです。私は学校司書をしており、今年度から校内の探究部に所属となりました。あまり図書館が活用されないのですが(自分の力不足もあると思います)、なんとかもう少しうまく探求活動にかかわりたく参加させていただきました。次回以降も期待しています。ただ、今回配信時間を過ぎても先生方の会話が続いたので眠くなってしまい最後まで視聴できませんでした。いろいろご都合もあるかと思いますが、あと30分程度早く始めるか終了は予定通りの時刻にさせていただけるとよいのかなと思いました。

(県立 学校司書)

※やはり終了時間は守ったほうがよいですね。時間変更検討しています。主催者側の打ち合わせはいったん終了してからにします。この方のように、探究学習にかかわる高校の学校司書さんの参加は多くなるかもしれません。ただ心配なのは、学校図書館を使う探究学習を展開できる学校が少ないという部分。それは多分に学習内容のイニシアティブが生徒にあるかどうかで決まります(山崎レポート参照ください)。

★片岡先生のコメントを受けて、山崎レポートはこちらです(→[リンク](#))授業で図書館が使われるかどうかは司書というよりも授業担当者にかかっており、なかなかそこにアプローチするのは難しいですね。個人の働きとしてできることも限界があるかなと思っています。こうした配信も、「探究学習では図書館が使えるんですよ」と、むしろ教諭の先生に伝えていくことが裏の意図としてあります。今後ともよろしくお願いします。

今日はありがとうございました!清教さんでPodcastされてはどうでしょう笑 移動中でもこの放送を携帯できるとちょっと楽しいと思います笑(私もいろいろ画策中)

※Podcastは音声のみなので、音声のみを事後に載せることはできるかもしれません。ただパワポ等の資料は別回路で提供せんとあきませんね。

★なんか楽に配信出来て、楽に聞ける仕組みあるといいなあと思うのですが、Podcastがいいのでしょうか。資料なしで音声だけ出してもいいならやつついで配信してもいいですね。どうでしょうか、柏原さん？

探究（総合）以外の授業では、中3理科の単元で「生物の進化」をテーマに一人ひとりが探究するという授業がありました。そこで犬を取り上げている子もいましたが、オオカミからの進化に踏み込んでいる生徒は良いとして、「進化」ではなく「品種」（ポメラニアンとかプードルとか）に逸れてしまった生徒もいて、単元の知識概念習得に至らなかったという問題もあったようです。

※「単元の知識概念習得」が教科の目的になるので、生徒の興味に発する探究が成立する条件はそれだけ厳しくなります。「品種の研究でも興味があればいいよね」と言いいにくいのが難しい所。

★「単元の内容を学ぶ」こと自体が学習の目標になっていると、そうした齟齬も出てきますよね。授業が探究の「枠」を設定するのか、しないのか、みたいな話はこの10年間色々な学校でされているのを見てきましたが、清教学園の場合は後者です。「別に品種を研究してもいいんじゃない？あなたがそれに興味あるなら」という。このあたり、おっしゃる通り探究以外の、各教科での探究学習が難しいところだと思います。「探究」の定義にもよりますが、知識習得が重要な目的の一つである教科学習で、無理に探究を入れるべきなのか？と言う点も結構重要な議論かなと。

生徒さんがイヌ・ネコ・獣医というワードからさまざまな視点で主題設定をしていて素敵でした。もしお時間ございましたら心理的安全性のある教室作り(特に新入生)についてお話を聞かせていただければと存じます。

※「心理的安全性」という言葉が最近よく現れるようになりました。それがとりもなおさず、教室の“心理的に危険な状況”がそうさせているのは想像に難くないです。学校は一貫して（特に中学校以上では？）心理的安全が脅かされる仕組みになっていると感じます。探究学習や調べる学習をするときに、クラスの生徒の目を気にして題材を設定する生徒は少なくありません。清教学園では「キャラ優先（チョコちゃん／キャラ男君）」としていますがテキスト p.16 参照下さい。こうした生徒は心理的危険を回避する手段として、クラス内のキャラに合わせた（興味のない）題材を選びがちのように思われます。ときに、調べてみるとこの言葉はアメリカの心理学者エイミー C. エドモンドソンによるそうです。心理的安全性とは「チームのメンバーが、リスクを冒し、自分の考えや懸念を表明し、疑問を口にし、間違いを認めてもよく、そのいずれをもネガティブな結果を恐れずにできると信じていることである」「率直であることが許されるという感覚」とのこと。[心理的安全性とは何か、生みの親エイミー C. エドモンドソンに聞く 成長し続けるチームを育てる土台 | チームマネジメント | DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー](#)

★過去に本校の授業でテーマが決まらない生徒の例を出した時に、「教員なんかには自分が本当にやりたいことを、生徒は言わないでしょ」と意見を頂いたことがあります。なるほど確かに、片岡先生のコメントにあるように、クラスメイトの目線や、教員との関係性によって、「心理的に安全でない」状況が生まれ、ほんとに興味あることをやり辛い、語り辛い雰囲気は一般的にあるのかもしれませんが。ただ、清教学園の生徒を見るとかなりの生徒が心理的なハードルはおいといて、「ホンマの話」（と、南先生と僕は名付けています）を授業でしているように見えます。卒論のテーマもそうですし、それ以前のエッセイ作文等でも同様。新入生の頃から、「総合学習は自分の興味あることを研究する場」「お互いに語り合う」ことを常としているので、当然のことと受け入れているのかもしれませんが。新入生の頃から授業課題が色々ありますが、いずれも「テーマを自分で決める」「完成した作品や、作成中の過程を人に公開する」「お互いに意見交換する」という点で共通しています。「総合学習はホンマの話をする場所」という認識はある程度つくれているのかも

先生方の広範な知識量にも驚きましたが、受け持つ生徒たちの探究テーマを具体的に把握していることに感銘を受けました。先生方の話を聞くことで、また指導をするうえでの解像度が上がったように感じました。

※生徒の学習内容に基本優劣はなく、個々の「探究テーマを具体的に把握」が大事な授業なので、論文作成に付き合うなかで自然知識量は増えてしまうのでしょうか。

★生徒の氏名はどんどん忘れていくけど、テーマやフィールドワークは覚えている、ということがよくあります 笑。150人が150通りのテーマで毎年研究するので、付き合っていてこちらも色々世の中のことを学べますね。

娘を寝かしつけながら拝聴いたしました。ありがとうございました。犬猫、セラピー系のテーマ、癒しを求めている生徒層がドンピシャ選んでいたのも南先生の発言に大きく頷いてました。本校は1年生後期から3年前期？までの期間の自由探究となり、1つのテーマで深掘りしていく難しさを感じる2年目(二周目?)です。論文テーマのリストを提示したら、また生徒の発想が変わりそうなので、有り難く活用させて頂けたらと思います。その時はまたご報告させてください。1年間限定時の自由探究では、最高のラーメン、焼肉、高速道路、道の駅、などありました。5月は修学旅行の個人探究テーマに付き合う日々が続きます。

※こうして具体的な探究学習の様子が伝わってくるのがうれしいです。「論文テーマリスト」の提供は、ひろばの中での思いつきでした。例えば「犬に関しての論文のテーマはこのようなものがありますよ」というリストを生徒に示せば、探究学習に立つのではないかと感じたのです。そのとき「このタイトルは具体的でいいね」とか「これは『好き好きテーマ』（テキスト p.105）だね」とかコメントできたら効果もありそうです。このさい3000名分のテーマをオープンにしたらどうなるでしょう。なにか問題はあるかな？ともあれ、リストを生徒に見せたらその反応など是非お知らせ下さい。

★「最高のラーメン」とか「焼肉」とか、うちの人たちもよく言うのでどこも同じですね。「最高って何？定義は？尺度は？」とか、いや～なツッコミをこちらからは入れていきます。何年か続けると、先輩のテーマ一覧や作品がたまっていくので、公開するのはとても大事だと思います。ウチの生徒たちもよく図書館で先輩の卒論を借りていきます。分野そのまま参考になるし、書き方の真似もできるし。僕らが色々教える以上に、見て学んでくれます。

ラジオ感覚で新鮮でした。長年の蓄積による文献リストから、課題や成果を洗い出すことが学校の財産になると思います、参考になりました。司書の先生に相談してみます。本校では、探究テーマを調査手法（文献調査、アンケート・インタビュー調査、参与観察・現地調査、実験）に基づき調査し、論文にまとめるところまでサポートします。実験をベースに調査する生徒が多く、理科教員の負担が大きいように感じています。チームとしてサポートするのによい連携方法はありますか？（県立新潟）

※ここでいう「チーム」は指導者側のチームでしょうか。それとも生徒のチームでしょうか。理系の探究学習はSSHなどで実施されていますがその支援法は正直わからないことが多いです。今度で「ちくまQボックス」でその方向の本が出ると聞いています。

★教員の「チーム」ですよ。例えば、配信に登壇している片岡・山崎・南と、図書館の先生方はチームとしてサポートできていると思うのですが、学年や教科、もっといえばカリキュラムマネジメントとして管理職などのサポートもいると思います。こうした話はいつも最後は、カリキュラムマネジメントと、教員の教育観に行きつきます。仰るチームの規模が「授業担当者と学校司書」の二者なら語れることは色々ありますが、もう少し大きなチームになると、うちでも課題が多いです。役に立つかはわかりませんが、こちらのレポートを紹介しておきます（→[リンク](#)）探究学習をめぐる教育観について、生徒・授業者の双方への取材があります。教育観が異なると、とたんにチームとして一緒に仕事をする難易度が上がります。自分が仕事で何を大切にしているのかを問われるわけですから、そりゃそうだよなと思います。

すてきな学びの場をありがとうございました。小学校教師としても、子を持つ親としても興味深く拝聴いたしました。

※保護者さん視点として評価していただけるのはうれしい限りです。学校（能力）目盛りとは違った教育の視点が大事だと思います。

★保護者目線は学校教育が動く大事なきっかけになりますので、嬉しいです。

途中でやむを得ず退室することになり、「最後まで聴きたかった～！」となっております。アーカイブがあれば嬉しいですが、ないですよ…？

※音声アーカイブ検討しますか？ 時間がズレたら参加しやすいかな？

★他の方のご意見でも podcast がありました。柏原さんどうですか？？

「好きなこと（もの）」「興味のあること（もの）」を探究しようとしたときに、その「好き」や「興味」レベルが、自分で思っていたよりも浅いものであることに気づいて「別なこと（もの）に変えたい」といった生徒さんも出てくるかと思えます。

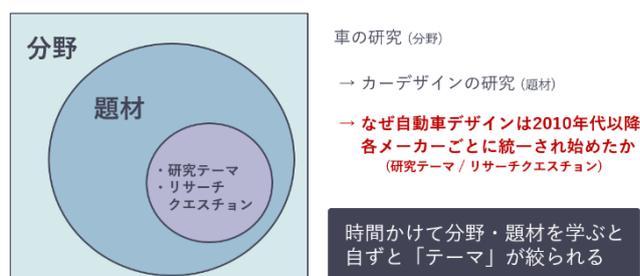
テーマ設定の際に丁寧なご指導をされていらっしゃるかと思いますが、なかなかテーマが決まらなかったり、また、なかなか作業が進まなかったりする生徒さんに対してどのようにアプローチされているのか、お聞きしてみたいなあと思いました。

※こうした生徒への働きかけが労力のかなりの部分を占めています。このあたり探究大全の「よもやまコラム1\_「興味」と「リテラシー」からみた生徒」[よもやま1\\_「興味」と「リテラシー」からみた生徒.pdf](#)が少し参考になるかもしれません。とはいえ、「なんでやねん」の工夫すべてがテーマや題材が決まらない生徒への援助といえなくもありません。

実践的にはクラスの雰囲気や友人の関わり具合が大きい印象があります。卒論の授業テキスト(→[URL リンク](#))「なるやろウイルス」(p.36)、「興味のあることなんかないよ！という君に」(p.19)、「題材決めテーマ設定・先輩のアドバイス」(p.23)などもあります。

★テーマ設定についてさらに補足です。

「テーマ」という言葉が探究学習では一般化していますが、この言葉も扱いがけっこう難しいと思います。本校の授業では「分野→題材→テーマ」の三段階で「研究対象」を分けていて、研究が深まっていくうちにだんだんテーマに近づいていくと伝えていきます。「どんなことが学んでみたい？」と聞いた時に、それなりの数の生徒が「分野」レベルの興味で本は選べるんですね。で、1年かけて色々な本を読んでいくうちに、「自分でテーマを決める」というよりは、本を色々読んで、興味があるところに付箋を貼って、フィールドワークもしてみた結果として、「テーマが立ち上がってくる」と言った方が適当なのかなと思っています。能動的に決めるというよりも、中動的に。このため、生徒が決められずに悩んでいるのが「分野」「題材」「テーマ」のどれなのかによって、声掛けも変わってきます。この議論はちょっと時間がかかるので今日はここまで…。論文の完成を求める以上、最後はそれなりのテーマになりますね。



・探究学習・調べる学習を充実させるために、どのような学校図書館づくりをしていったらよいでしょうか。担当者が数年で交代してしまったり、公立学校の場合は異動もあつたりすると思いますが、その場合はどのような工夫ができると考えられるでしょうか。

・対生徒というより、探求をやらされている教員への対応について知りたいです。教員の授業設定が「最低限のページを埋めさせること」を目標にしている教員と「生徒の中から何らかの自己の学びを引き出すこと」を目標に設定している教員が同じ単元で図書館で探

求っぽい授業をしているのをサポートすると、その差に気が遠くなります。各教員の授業に対する考え方の違いなのでしょうが、どうせなら「最低限のページを埋めさせること」から脱却してもらいたいです。一番いいのは、一度、楽しい探求を教員に体験してもらうことだと思のですが、なにか短い時間で楽しい学びを体験できることってないでしょうか？

※この問題（特に後者の）は先生の教育観の違いです。そしてその教育観は先生ごとの被教育経験の反映といえます。片岡は、「短時間・小規模でも先生方が自分でテーマを決めてご自身の興味を探究する経験」が必要と考えています。そのため「ミニ調べる学習」というワークショップをあちこちで繰り返しています。その様子を紹介したプリントもありますのでお届けできます。

前段の学校図書館作りはこうした先生方の教育観の変化の先にある問題のように思います。かつて『情報大航海術』（リブリオ出版,1997）を行なった神奈川県立厚木商業高校の蔵書は、果たして今どうなっているのか気になりました。

★教育行政の課題と、授業担当者の教育観の二つにトピックが分れると思います。前者については引継ぎしかないでしょうか。本校の実践も、長く同じ人・チームが授業や図書館経営に関わることで作ってこれたのは間違いないです。これが頻繁な異動に晒されていたと思うと…。とはいえ、図書館は場所として、資料はモノとして存在するので、そうした場所やモノに、前任者のレガシーを託すしかないですね。ウチなら「図書館年刊事業報告」をつくっています。他校の先生に「自校の書庫を整理していたら、実践報告や事業報告が見つかった。20年前にかなりの図書館活用があったことを知って、いてもたってもいられなくなった」と聞いたことがありました。図書館的にはアーカイブの重要さは強調したいです。後者の教育観については、以前調査したことがあるのでご参考まで。（→[リンク](#)）先生にもまずは楽しく探究してもらうこと。その通りだと思います。先生自身に探究の経験がないというのは、もっと知られてよいと思います。

現在、横浜の公立中学校で学校司書（教員免許はなく、司書資格有）をしております。

当校は探究学習といっても、大抵3時間で単元を終えます。（短いと1時間、長ければ5時間）その為、探究学習と言うよりは調べ学習に近いです。

例) 社会科 身近な環境問題について調べ/世界の国調べ/

総合 修学旅行や宿泊合宿先を調べ/人権問題/平和学習（国際平和スピーチなどの原稿作りの為）/理科 体のしくみ調べ/太陽系調べ

そもそも学校司書が常駐ではない、蔵書が無い、OPACだけでは件名・目次・内容などが把握しづらい。という探究の土台が不安定な中で、公共図書館の蔵書の相互貸借や、学校向けに無償利用ができる OPAC『カーリル』<https://calil.jp/> の使用、毎年行う単元に関しては授業に常駐できるように調整を行い、なんとか関わっています。

しかし、生徒に一人一台端末配当されてからは図書館に来て紙媒体の資料や図書館を使わずに教室でネットで調べて終了する先生方も多く、全てを把握できていません。

そんな中で、私自身も未熟なのでどうしたら紙資料や図書館、学校司書を使って探究学習（調べ学習）をして頂けるだろうか？生徒達が探究に向けて学びやすくなるだろうか？先生と言う思いで、参加させて頂きました。

生徒が悩む部分は下記で

・テーマを決めるのに時間がかかる。／探究（調べた事）のまとめかたがわからない。

私自身が悩んでいるのは下記です。

・上記の道筋、悩んでいる時の提案、声掛け、資料。／授業時間のほぼ全てが本やネットの丸写しになってしまう子も多い。

テーマ決めて、やはり何かしら参考になるものがないと生徒が決められないと私も感じています。

テーマを決める時には「5W 1H」のうち「どのようにして」とか「なぜ」という言葉をテーマに入れると考えやすいよ。というテンプレート的なものがないとなかなか構想が難しそうです。（そういった、テンプレートの与えかたのタイミングとか・・・）

私一人ではテーマ例を考えだし、資料にすることが難しく以前 chat GPT を使って例題と調べる難易度をいくつか出してみてもそのテーマで調べられるか？自分で挑戦した事がありますがやはり当校の蔵書とはリンクしていないので調べにくいテーマもあり、今回の話にあった『前年度の成果物』のタイトル一覧は「調べられたから成果がある」ので使えるし、テーマ名だけなら私一人でもリスト化できそうだと感じました。（しかし全く参考になるものがないより、テーマ例は無いより、あった方が調べやすいと感じました。）

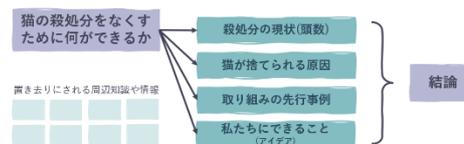
※コメントありがとうございます。広範囲にわたる内容なので、自分が授業担当ならと考えてコンパクトに。3時間の「調べ学習」であったなら、①単元に合わせた本を学校図書館の机の上になるべく積んで、生徒が手に取れるようにする。できれば生徒1人3冊くらいあるといいかも。②本のなかで興味のあることを付箋紙に写し、出典と生徒氏名を書く。③付箋紙が何枚か書ければ恩の字で、さらに可能なら付箋紙にアバターとコメント（感想）を書きつけてセットにする。④付箋紙を模造紙に貼り付けて発表会の代わりにする。といったところでしょうか。④の段取りはいろいろありそうですが、大事なものは①で、ここは市の団体貸出を利用します。今調べたら40冊くらいは手に入りそうです（これはちょっと少ないような気がします）。横浜市为学校団体貸出→[PowerPoint プレゼンテーション](#)

学校の「調べ（させ）学習」の勘所は、テーマより「読みたい本が生徒の目の前にあるかどうか」だと思っています。物量作戦といいましょうか…。

★熱いコメントありがとうございます。現場で奮闘されている様子が目に浮かびます。他の方へのコメント返しでも紹介したのですが、授業担当者の意識調査を行ったレポートがあるのでこちらもどうぞ（→[リンク](#)）。その上で、「テーマを決めるのに時間がかかる。／探究（調べた事）のまとめかたがわからない」「上記の道筋、悩んでいる時の提案、声掛け、資料。／授業時間のほぼ全てが本やネットの丸写しになってしまう子も多い。」のお答えですが、テーマ決めは時間がかかるもので時間をかければいいと思うし、丸写しになるのは当然なので、まずは調べ学習をやったあとに自分の研究と呼べるようなものを作

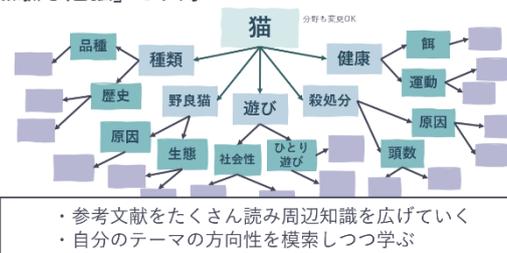
ればいい、とお答えします。たとえば清教学園の卒論は完成までに1年半かかっています。それは執筆のための時間というよりも、読んだり、考えたりするための時間です。執筆それ自体は3ヶ月くらいかな？ この過程で、「分野→題材→テーマ」とだんだん決まていくのですが、やはりそれくらい時間かかるものですし、それくらいかけないと右図のように「コスパのいい学び」になって終わります。学校司書の立場からできることは少ないかもしれませんが、「時間がかかるもの」「かけるべきもの」との認識を授業者側が持つべきだと、僕は思います。その認識のあとに、じゃあ1年かけて論文書いてみるか、といったカリキュラムマネジメントの話になるんですね。総合学習はそのための1単位です。生徒も教員も、ワークシートや民間教材で「コスパよく」学ぶ・学ばせる風潮がありますが、そうしたフレームワークの功罪がもっと検証されたほうがいいですし、地道に読書する探究学習がもっと広がるべきと考えています。そうした教育観がもっと広がれば図書館が使われる必要も生まれるし、そういう風潮になればいいなと思って、我々も教員向けの活動を続けています。探究大全もその一環です。

### 「コスパのいい」学び



- ・手堅いが、つまらない。知識もテーマも広がらない
- ・結論ありきの研究。必要最低限の情報をなぞって終わる

### 「無駄な勉強」が大事



お話の中で『それは調べて終わってしまう』と言う探究に向けた言葉と、『探究にならなくても調べる事で知識を蓄えることも大事』と言う言葉がありました。授業の度に授業内で探究へ・・・と思っていましたが、生徒の理解度や能力から調べて終わる生徒がいても、次の授業で探究へつながるように声掛けすることが大切なのかなと感じました。

※はじめに優先すべきは「探究したフリ」ではなく「興味を持って資料が読めるか」です。題材は基本何だっていいのです。どんな分野でもその生徒の興味と読解力に応じた本があるはずだからです。知識の蓄えのその先にこそ探究学習が開けます。反対に、知識もないのに「問い」やら「テーマ」「ポスター」「スライド」に突き進むと、興味も関心もないアライバイ作り探究（探究させられ学習）になってしまいますね。

★先コメントとも関連するのですが、興味があるなら調べておわるのもそれでいいのでは、と思います。授業時間数にもよりますが、世の中の先生たち、「調べ学習は低次」「探究学習は高次」みたいに考えているようなのですが、それは違うと思います。むしろ「探究学習」の中に「調べる学習」の局面が含まれている状態ですね。(たかが)小中高生に「調べただけで終わらない成果物」を求めることの難しさはもっと議論されるべきで。普通の学部4年生でも、そこまでの論文、研究はなかなかできません。探究学習はむしろ、オリジナルの研究成果を仕上げるのではなく、オリジナルの研究経験を積み重ねればそれで御の字ではないかなと。やたらと高度なことや、アイデア合戦に終始しがちな探究業界に

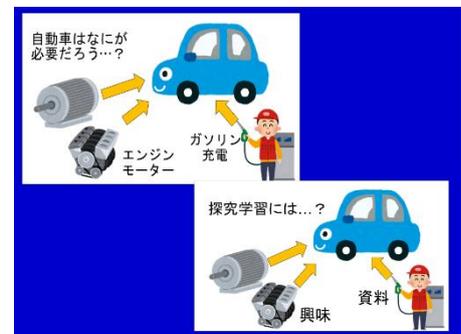
ちょっと懸念があります。仰るように、「次の授業(や、研究)へつながつように」なればそれでいいんじゃないかなと。

まとめかたについて生徒に直接「まとめかたがわからない」と言われた事があり、私は教員資格がないので具体的にアドバイスができません。

生徒が持っていたワークシートの最後に授業の感想を書くようになっていて『思考ツール』と呼ばれる KWL シートの「知っていること」「知りたいこと」「学んだこと」を書くようになっていたので、まとめについても↑や、「面白いと感じたところ」を書いてみては？とアドバイスし、その後教員に上記のように回答したことを確認したら、「まとめの仕方を生徒に伝えるのは難しいよね。」とそれで良いですよ。了解を得ましたが難しいと感じています。

K (知っていること)	W (知りたいこと)	L (学んだこと)

※KWL シートも 5W 1H もいわゆる思考ツールですね。それらを否定するつもりはないのですが、それがツール(道具)として役立つ条件が生徒に整っていない場合が多いように思うのです。ツールを駆動させるためには、エンジン(興味)とガソリン(本・資料)があつてこそだと思います。それがないと、生徒にとってツールも枠を埋めるアリバイづくり苦行になりはしませんか。



★思考ツールの扱いについては片岡先生と同意見です。

清教生はその手のツールを全く使わずに論文書いているのですが、ワークシートや思考ツールは近道であるようにみえて、実は遠回りのような気がしています。論文のようなものにまとまっていく過程は、もっとぐちゃぐちゃで、簡単な整理を許さないものです。

「私は教員資格がないので具体的にアドバイスができません。」これについては、僕は教員も司書も無いと思いますよ。なぜなら「探究学習の教員免許」は無いからです。探究については授業担当者も全員素人で、自信を持って教えている人っているのかな。むしろ図書館に精通した学校司書や、司書教諭の方が、情報収集でもまとめでも、広範な知識体系へのアクセスでも、教科教員然とした方々より専門性があるのでは。ご自身の実践を色々語っていただきましたが、それってこれまでの学校の先生にはできないことですよ。

大好きで尊敬しているお三方のざっくばらんで深いお話。聞いているだけで、早く仕事したくなってきました。よく使われている資料名を挙げてくださり大変参考になりました。最後に質問にあがったデモンストレーション、興味深いです。次でなくてもいつかお聞きできたら嬉しいです。

今、個人探究をしている生徒を時々見ているのですが、資料を勧めても読めないことが。開かず終わることも。読むのが苦手、面倒だから読めないのか、また動機が弱いから読めないのか。勧め方がよくないのかもなぁと思いつつ、どうすれば良いのか悩んでいます。

※レファレンスの空振りありますよね。どれくらいの確率で渡した本が「当たるのか」清教学園でも学校司書の方の方が詳しいでしょうが、数から行けば外れる方が多そうです。5冊渡してその場で返してくるなんてこともよくあるような。でも「この本が外れだった」ということは、生徒にとっても先生にとっても学校司書にとっても前進、と考えてはどうでしょう。生徒にとっては「この題材の本はわたしを招いてはいないな」という確認になりますし、そうとなれば早めに別の題材に進路変更できるからです。そうとなれば、これは先生や学校司書にとっては吉報ですよ。

★レファ空振り、色々紹介しても不毛な結果に終わることはうちでもよくあります。個人研究で本が当たらない生徒は、時間薬のような気がしています。「君の興味は何だろう」と、授業担当者や司書からずっと問われていると、なんか出て来ることが多いです。最近本校では「オープンダイアログ」(調べてみてください)の手法を取り入れて、生徒の興味を掘っています。一方で、「教員によるSDGsのテーマ指定」「グループ学習で責任が分散」あたりは不毛レファレンス率が高いです。結局動機ですね。生徒個人が興味の世界を掘るしか鉦脈には当たらないと思います。

・山崎先生の「なぜ探究で図書館が活用されないか」を読ませていただき、腑に落ちた気がしております。「半年は本のみ使用するよう指導する」というお話をお伺いしました。ネットで調べただけで終わってしまうことが多いので、本校もそうあってほしいと思っています。質問です。「興味関心を持った題材を社会的課題に接続する」作業は、生徒には難しいようにも思えますが、生徒主体で行っていますか?先生が導いていますか?社会的課題にすると生徒が興味を失ってしまいそうですが、生徒の興味は持続しますか?そのあたりのお話をお伺いしたいです。

※頭に「社会課題」とついたらたんに、「万人が取り組むべき the 社会課題」が生徒や先生の頭に浮かんで、それが興味を減退させてはいませんか。どんな題材でも突き詰めていけば、なんらかの社会の課題に行き着くものです。それに行き着くまでは自分興味を満足させるだけ本を読むのが先ではないですか。むしろ問題なのは、清教学園にもいますが、「JPOPがなぜKPOPのように世界展開できないか」「仮面ライダーはどんな正義のために戦うのか」…などは「the 社会課題」ではないと言い募る先生が現れる場合です。いわゆる「おちゃらけテーマ」拒否症の先生です(このあたりテキストのp.38参照)。しかし、前者は「企業はいかにグローバル戦略を実行しているのか」、後者は「社会正義の揺らぎがテレビドラマにどのように反映するのか」といった、きわめて社会課題を反映した問題につながりうるのです。

と、ここまで書いて、いや別にそんな真正の the 社会課題でなくたって、それはそれ研究にはなるし、そういった興味をとことん突き詰めた方が（かりそめの社会課題解決のフりをするより）長い目で見て生徒にとっては良いような気がします。少なくとも、自分が生徒なら好きを突き詰めた研究したいです。

では「独りよがりな趣味研究でいいのか」というツッコミがあるかもしれません。その点清教学園の卒業論文では「研究の意義」をしっかり書かせます。つまり「自分以外胃のだれか、社会にとってこの研究にどんな意味があるのか」をちゃんと言葉にさせるようにしています。

★「なぜ探究で図書館が～」レポートお読みいただきありがとうございました。かなり反響あったので、全国各地同じ状況なのだと思います。「興味関心を持った題材を社会的課題に接続する」作業は～」注目して頂いたのに申し訳ないのですが、社会課題との接続は半分は「方便」です。「社会課題と接続されなければ探究のテーマとしてふさわしくない」と考える先生が一定数いて、そうした方を説得するためのカリキュラム作りとも言えます。すみません。ですので、個人的には「興味があることを存分に学ぼう」「いずれそれは自然と社会とつながる(いくらでも繋げられる)」と伝えています。繋げる際はやはり、大人のサジェストは必要ですね。中高生のどちらも担当していると、色々見えてくるものはあります。ただの興味でスタートした中学生の研究が、各教科の専門性、社会の課題と接続するのが高校生という時期なのかなと。これについてもまた機会があれば話したいです。

家の都合で途中参加、途中退室だったので、話の内容が見えなかった部分もありましたが、選書の参考になる話を伺えてよかったです。数年前に生物資源コースの課題研究で愛玩動物についての研究テーマを抱えている生徒がいたときに、『ペットの幸福度』を相互貸借で借用したことがありました。すでに版元在庫がなく、購入はできなかったのですが、ほかに同じような内容で新しめの出版物がありましたら教えていただきたいです。

(もしかするとオンライン配信中に話がでたかもしれませんが、この本の話で退室してしまったので…)

※公立学校では難しいですが、清教学園では絶版本はアマゾンで取り寄せています。そうした蔵書購入の弾力性が学校図書館に欠けている問題は別に扱わないといけませんね。古本がダメならやはり公共図書館から借りるかな？ 生徒に「アマゾンで半額だから買ったら？」というかな？

★動物倫理一般の本はかなり流通していて新刊も多いです。「ペットの幸福」に直接言及する前に、そうした分野の体系的・理論的な本から入るのもお勧めです。生徒の議論に厚みが出ます。「そのものずばり」の本だけでなく、「関連分野」「上位分野」から攻めるのも、図書館的にはあるあるです。

基本的に今回の時間帯は参加しやすくありがたいです（ただ、今回は宿泊客がいてバタバタしてしまったので全部参加できずじまいでしたが）。先生方が、探究学習でのレファレンスや資料の情報交換の様子を垣間見ることができて良かったです。ありがとうございました。

途中から参加したため、前半を聞き逃してしまい、少し後悔しています。土曜の夜と言う時間帯も、とても参加しやすく、ぜひこの日程で引き続きお願いできますと幸いです。

貴校の図書館の活動の一端を見られて、大変勉強になりました。本校では犬・猫（ペット）について研究する生徒も少なく、蔵書も見直ししていない分野だったので、これを機に古い蔵書を更新しようと思います（更新すれば、隠れてた需要を掘り起こせるかも...と思っています。）参加しやすい時間帯だったのも感謝しています。今後ともよろしく願います。

※実施時間についてはごめんなさいちょっと早めを検討してます。10時を過ぎると私も柏原さんも「深夜勤務」になってしまうのです（'◇'）。犬猫の本、お知らせ（広告）になってしまいますが、清教学園で以前出した『なんでも学べる学校図書館』（少年写真新聞社）に少しリストがあります（けっこう古いですが）。他の人気テーマもランキング順にしています。

★犬猫、少ないのですね。意外～。探究大全のランキングは清教学園中学だけのデータですが、他校のデータもぜひみてみたいです。中高といった学齢によっても変わるんでしょうね。

#### 取り上げてほしい話題について

・テーマ「経済や金融」と「歴史」・・・調べ学習の延長のようなものしか昨年度の成果からは見受けられなかったもので、どのように声かけをしているか教えてほしいです。あわせて、このテーマを選ぶ子は、どの程度フィールドワークをさせているのかも教えて頂ければ参考になります。

・関連して、フィールドワークの話が昨日も上がっていたので、どんな心構えで臨ませているのか、事前の指導があるのなら、その辺も教えて頂ければと思います。

・本校では、1年間通して、フリーテーマで探究をするのは、高2となるのですが、専門でない分野にどの程度口をだすのか、教員間の意思疎通に課題があると感じています。何か、教員間で共通理解(専門外のテーマでも、よい壁打ちになるには)をどうしているのか、何かツールや参考にしているものがあれば、知りたいです。

※「調べる学習」の先に探究学習があるので、「調べる学習」が無い探究学習は「探究してまずアライバイ学習」になります。「声かけ」…どうするのでしょうか。「今読んで知る本でどこが面白い?」「なぜ?」「動機はなに?」かな…? フィールドワークで経済系だ

と高校生で国債を購入した生徒がいましたね。「ドバイの経済」の生徒はドバイに進出する日本企業にやたらメール出していました。中学生はもっと身近な展開になりますね。

フィールドワークの心構えといいますか、段取りはテキストの第4章ご覧ください。

専門でない方が口は出しやすいと思ってます。片岡は生物（生態学）ですが、外来魚や鳥類など題材にされるとやたら深追いしてしまうので自重するのが大変です。一般常識レベルでツッコミや壁打ちができずに悩みます。特に面白そうなテーマを自分で思いついた時が「罨」で、生徒に関心がないのにそっちに引きずり込む誘惑に駆られます（手前がその研究やれということですね）。

★金融や経済、難しいので本校でも分野の知識をなぜ回して終わること多いです。もう少し身近なテーマ、経営なんかになると、具体的な企業の戦略など色々出てきて扱えること多いです。かなりいい研究も多いです。企業への直接取材、無印良品の「シンプル」尺度を決めて、陳列商品のどれくらいの割合がそうなっているか調査した生徒…んー挙げだすときりがありませんが、大全の「食」（→[リンク](#)）「茶・菓子」（→[リンク](#)）あたりのフィールドワークが参考になるかもしれません。「歴史」は今回のトピックなので配信をお楽しみに。「専門でない分野にどの程度口をだすのか、教員間の意思疎通に課題」本が教員で、授業者は学習支援という役割なので、専門分野に関してはあまり口出しの必要を感じたことが無いですね。一般教養くらいのことは聞きます(分析のおかしさ、定義へのツッコミ…etc.)むしろ自身の専門分野の対応は避けることも多いです。誘導してしまいそうで。教員間でも日頃から「どう伝えた？」は、頻繁に口頭でやりとりしていますね。

第1回の中でコメントさせていただいたのですが、先生方がどのようにファシリテートされているのか、が見てみたいと考えています。特に、授業で生徒が設定したテーマで、資料提供に困った実例など、先生方がどのように対応されるのか、参考にさせていただきたいです。

・mbti 診断はなぜ流行ったのか。／なぜ蛙化するのか／音楽が人に与える影響

↑この辺りが、私自身上手く資料提供やファシリテートができなかったな、と後悔しているテーマです。蛙化現象と言う比較的新しい話題や、音楽が人に与える影響、という本格的にやると脳波など明らかに難しくなるであろう話題など……

また、最近では ChatGPT を利用する生徒も増えてきたため、生成 AI の利用についてどのように考えているのか？もお聞きしてみたいです（こちらの話題は、もしかしたら会の趣旨とずれてしまうかもしれないので、その場合はスルーしていただいて構いません）。

※自分のしていることはファシリテーターかまだよくわからないのです。ちょっと調べると「話し合いをより良いゴールに導く進行役」といった定義があります。この場合の「良いゴール」を生徒自身が見出すお手伝いをしています。だいじなのは先生が「良いゴールはココ」と決めないあたりですかね。

MBTI 診断は今まで出てないんです。理由は「心理学・性格はやめとき」とはじめに釘を刺しているからかもしれません。テキストの p.24 を参照してください。「心理学を学ん

でも人の心はわかりませ〜ん」と言ったりします…。蛙化も一緒ですね（はじめ「茹で蛙」かと思いました…知りませんでした）。「音楽が人に与える影響」もよくはじめに生徒が書きだす題材です。これも「心グループ」ですね…。音楽療法など医学的な研究もありますが、まあ医学なので面白くはないです。「やめた方がいいよ、絶対ダメとはいわんけど、どうしてもというなら、付箋紙がいっぱいついた本を何冊か持ってきて。それなら相談にのる」とも？

AIの利用は要約でしましたが、対策はまだですね。剽窃チェックのソフトの導入はするかもしれません。

★最近、レファレンスや、テーマが決まらない生徒の相談に乗っている時に、生徒に許可をとって録音をよくしています。もし生徒からOKが出たら、そうした内容をひろばで共有し、みんなで検討みたいなことも面白いかもしれないですね。そういう面談テクニックの共有って、言われてみると実はすごく重要なものかもしれません。職人芸的に、属人的になりがちなので。

（チャットより）生徒に、いい論文にはならないよ。と伝えていると言う事ですが、良い論文の定義的なものって、どうお考えなんでしょうか？

※よい論文は確かにあります。とりあえずは「テキスト p.136 のチェックがない論文」でしょうか。テーマ設定、書式、出典…いろんな視点から「良さ」を調べます。ただ、「出来上がった論文の良さ」と「生徒にとっての論文の良さ」とは別物です。すこしカタクありますが、前者が「個人間の絶対・相対評価」、後者は「個人内の絶対・相対評価」です。長い目で生徒の成長に「効く」のはもちろん後者です。学校の授業なので仕方がないから評価はつけますけれども、本当の狙いは「俺は（私は）こんな面白いことやったぜ」という実感こそ大事だと思うのです。

★これについてはとてもとても時間がかかる議論なので、いずれ取り上げられればと思っています。よく思うことは、「よさ」の尺度と「うまさ」の尺度が異なることです。「へただけどいい論文」と「うまくてダメな論文」、「へたでダメな論文」と「上手くていい論文」が存在します。一番最後を目指したいですが、それができる生徒は多くはありません(中学生の場合)。なので、多くの生徒には「へただけどいい論文」を目指してほしいなと思います。

（チャットより）調べました、で終わりそうな計画の時、どのように生徒と話をしますか？今後の「調べる学習ひろば」のどこかで、先生方のデモンストレーションなどを見たいのですが、可能でしょうか？

「調べました、で終わりそう」何ていうだろう…。論文タイプなら「だれが調べてもそうなるテーマなんだね。みんなが調べて同じ結論になるような問いは『飛行機はなぜ飛ぶか』を調べるのと同じで、あなたが知らなかったことを知っただけだよ。それはそれで大事。いってみれば、答えのない問いを（いろいろな答え方のある問いを）探すための中

継地点だね。そこからさらに興味があることを深めてみよう。もしそこで興味が尽きるのならそれは題材やテーマがよくなかっただけなので、別の方向をさぐろう」でしょうか。

ときに、こうした「終わりそう」なケースは、元から「調べればわかりそう」な問いをわざと立てている場合があるかもしれません。探究学習の授業で「問いだ問いだ」と強調すると、興味も知識もないのに思い付きで疑問文にするヤカラが出てきます。それはそれで要注意ですよ。本当に問いが成立するのは、強い興味や問題意識に支えられ、しかも多く知識が蓄えられてからです。テキスト p.105 に「ヨーグルトって知ってる？」というテーマ例があります。中学生の君より知ってるって。上から目線でなにゆうてんねん。

デモンストレーション！ ちょっと恥ずかしいような。なんか不意に生徒としゃべるといろいろでてくるんですけどなんかええ格好しちやいそうです('◇')

★半年くらいは泳がせます。調べまくることが重要だからです。半年後くらいから、テーマを絞るとか、フィールドワークの実現可能性とか、色々と論文的な技術を伝えはじめます。そこで、「調べただけで終わりそうやね」という発言もします。生徒もアレコレ考えます。ケースバイケースです。同じ分野であっても、身近な題材・テーマに引き寄せると、調べただけに終わらない、オリジナルの調査や研究成果になりやすいですね。また詳しく取り上げさせていただけたら。